

## 第2回南国市民学校日程

| 日            | 時間             | 演 題                              | 講 師                       |
|--------------|----------------|----------------------------------|---------------------------|
| 5月<br>24日(月) | 19:00<br>21:00 | 子どもの瞳を輝かすために<br>—すばらしい魂を育てる家庭教育— | 横川遊亀寿氏<br>県立野市青少年センター指導課長 |
| 25日(火)       | "              | 核軍縮のすすめ方                         | 弥永萬三郎氏<br>高知短期大学助教授       |
| 26日(水)       | "              | 土佐のおどけ者                          | 市原麟一郎氏<br>「土佐民話の会」主宰      |
| 27日(木)       | "              | いつまでも若く、美しく                      | 高島 正臣氏<br>県総合保健協会健康相談診療所長 |
| 28日(金)       | "              | 文学にみる「女の一生」                      | 西村 時衛氏<br>作 家             |
| 29日(土)       | "              | テレビとの上手なつき合い                     | 河野 裕氏<br>RKC高知放送テレビ制作部長   |

## 5月24日開講 市立中央公民館で

## 市民学校の受講生を募集

五月二十四日(月) から二十九日までの六日間の日程で開かれる「第二回南国市民学校」は、申し込み者が少なく、市立中央公民館では多くのかたがたの参加を呼びかけています。

受講希望のかたは、次の方法で申し込んでください。

とき・五月二十四日(月) 午後七時～九時まで。

ところ・市立中央公民館(市民体育館隣)

受講料・無料

申し込み方法・ハガキに「市民学校受講希望」、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、南国市大塚甲二二二五、市立中央公民館まで。

### 講師のことば

#### 子どもの瞳を輝かすために

横川 遊亀寿

1、子どもは未来にむかって生きている。なぜ、あんなに前途を暗く見るのだろうか。

2、あの子のために、この子のために、親は何を考えてやればよいのだろうか。

3、子どもはのびる。体も、心も知能も。それなら、親は何をしてやればよいのだろうか。

やさしくって、情が深くって、かしこくって……。親の欲は、明日の子どものためにいつばいにひらがる。そのための実践教育論。

#### 核軍縮のすすめ方

弥永 萬三郎

核軍縮は今日の世界と日本の民衆の最大の関心事であり、共通のかつ中心的な課題になってきた。

この問題の解決なくしては、人類の経済的、文化的、精神的発展も望めないことが理解され始めています。

しかし、この核を中心として軍縮の問題は、その深い理解となる

と多くの分野に関連するため難しい点もいろいろありますが、私たちがそれを避けて通れない所にきている以上、努力して学習し続けるしかありません。

#### 土佐のおどけ者

市原 麟一郎

土佐には笑い話が多い。なかでもどこそこ村の誰れが、こんな面白いことをしたと、笑い話の主人公が実在しているのが土佐の民話の特色である。

昔はこの村にも人々に笑いを振りまき楽しませてくれる人気者がいた。こうした庶民のアイドルを私たちは「おどけ者」と呼ぶ。どれれ(へそ曲がり)いごつ(強情っぱり)ひようげ(ひょうきん)そそくり(あわて者)とつばこき(ほらふき)簡略家(儉約人)などなど面白おかしく人生を渡った男たちの抱腹絶倒(うしろ)の行状の数々を紹介したい。

#### いつまでも若く、美しく

高島 正臣

- (1)人間の寿命と死因
- (2)老化(高血圧)
- (3)食塩
- (4)動脈硬化
- (5)コレステロール
- (6)過酸化脂質
- (7)中年からの健康法

#### 文学にみる「女の一生」

西村 時衛

「女の一生」という標題の文学作品には、モーパッサンの「女の一生」のほか、日本にも森本薫、山本有三、遠藤周作のそれがあります。書名は別でも、結局女の一生を描いている作品に、トルストイの「アンナ・カレーニナ」、フロベールの「ボヴァリー夫人」、山代巴の「荷車の歌」、道綱母の「かげろふ日記」等があります。

これら内外作品のいくつかについて、その内容に許される限り具体的に触れながら、「女の一生」つまり「女のしあわせ」をあれこれ考えてみたいと思います。

#### テレビとの上手なつき合い

河野 裕

テレビの放送が始まって三十年。いまやテレビは日本人の生活の一部分になっているが、それだけにテレビの与える社会への影響は大きく、その功罪論議が盛んになっている。

テレビの送り手(放送局)と受け手(視聴者)の関係はどうなっているのか。また、どうあるべきか。日本のテレビの発展の歴史やシステム、無台裏などを紹介しながら「テレビと視聴者の関係」について考える。